

第46回経営協議会議事録

1. 日 時 平成27年11月27日(金) 14時00分～15時30分
2. 場 所 ホテルクラウンパレス浜松 3階 松の間
3. 出席者 中村(議長)、伊藤、上杉、猿田、篠原、永井、村本、鈴木、前田、晝馬の各委員
陪 席 小出理事(教育・国際交流担当)・副学長、針山副学長(情報・図書館担当)、
蓑島副学長(研究担当)、西山監事、津田監事

4. 議事録の確認

第45回経営協議会議事録(案)を原案どおり確認した。

5. 議 事

(1)平成27年度補正予算(案)について

前田理事から、平成27年度補正予算(案)について、学校分及び病院分の当初予算執行状況と補正予算による措置予定事項について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(2)目的積立金の使途計画について

前田理事から、平成26年度承認分の目的積立金の使途計画及び平成25年度以前承認分の目的積立金使途計画の変更について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3)規則の改正等について

人事課長から、職員給与規程の改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

医事課長から、病院諸料金規程の改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(4)報告事項

①平成26事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について

鈴木理事から、平成26事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について、報告があり、本学を含めた4大学(旭川医科大学、滋賀医科大学、東京医科歯科大学)の評価結果について、説明があった。

②平成26事業年度財務諸表の承認について

会計課長から、文部科学大臣より平成26事業年度財務諸表が承認された旨の通知があったとの報告があった。また、『浜松医科大学財務レポート2015』を作成したとの報告があった。

③目的積立金の承認について

会計課長から、文部科学大臣より平成26年度の目的積立金が承認された旨の通知

があったとの報告があった。

④学長選考の結果について

上杉浜松医科大学学長選考会議議長から、学長選考の結果について、報告があった。

⑤労働基準監督署の立入り調査について

鈴木理事から、労働基準監督署の立入り調査での指摘事項に関する対応について、報告があった。

⑥マイナンバー制度への対応について

前田理事から、マイナンバー制度への対応について、報告があった。

次回の経営協議会について（平成 28 年 1 月 26 日（火）開催予定）

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事（１）平成 27 年度補正予算（案）について

- 浜松医科大学全体をとおし、財源の確保もできており、順調な整備計画を進めることができているという理解でよいか。
- ◆計画的な整備等を進めることができているため、財務状況は健全である。附属病院については様々な努力の成果もあり、消費税の増額にも対応できた。

議事（２）目的積立金の使途計画について

- 学生への支援については、環境などのハード面だけでなく、職員の対応などのソフト面も重要だと思う。また、学習形態も多様化してきているため、グループ学習だけでなく個別学習にも対応できるような環境の整備など、必要な環境整備を計画的に進めてほしい。
- ◆図書館をもう少し大きくしたいと考えているが、財源の確保も含め、検討が必要な状況である。
- 学生からの要望はあるのか。また、そういった要望を吸い上げる体制はあるのか。
- ◆学生と直接対話を行う機会を設けており、そこで学生からの要望を吸い上げている。

報告事項①平成 26 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について

- 『特筆すべき進捗状況』となった取組事例を教えてください。
- ◆他大学と比べ、先進的な取組が『特筆すべき進捗状況』という評価になっている。具体的な事例としては、地域からグローバルに発信をするような事業や大胆な構造改革、地方の特色を反映させた学部の再編などがある。

報告事項⑤労働基準監督署の立入り調査について

- 医師や看護師に対しても指摘はあったのか。
- ◆医師や看護師への指摘はなかった。
- 裁量労働制を導入している教員についても、勤務実態の把握が必要だと思う。また、業務の見直しによる効率化を積極的に進め、長く居ることよりも、効率的に仕事を進めることが良いことだという文化を根付かせることが必要だと思う。
- ◆裁量労働制の体制や事務業務等の見直しを行い、労働環境の改善につなげていく。
- 仕事に対する考え方の転換や文化の構築が必要だと思う。今回の件をマイナスと受け取るのではなく、この機会に見直しを行い、プラスに変換してほしい。
- ◆この件には早急に取り組んでいく所存である。
- 研究活動などのアクティビティを落とさないようにしなければならないし、費用財源についても確保が必要ではないか。
- ◆財源については、最優先事項として確保を行う。